

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	20年 2月 8日
調査実施の時間	開始 10時00分～ 終了 15時00分

訪問先事業所名 (都道府県)	「至福の郷」グループホーム 東町 (福島県)
-------------------	-----------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u> 大野 恒夫 </u> 氏名 <u> 熊谷 まゆみ </u>
事業所側対応者	職名 <u> 管理者 </u> 氏名 <u> 遠藤 正子 </u> ヒアリングを行なった 職員数 2 人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	770800431
法人名	医療法人社団日新会
事業所名	「至福の郷」グループホーム東町
所在地	福島県喜多方市字蒔田3106番地2 (電話) 0241-21-198
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石町1丁目2-13
訪問調査日	平成20年2月8日

【情報提供票より 19年12月1日現在

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 19日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14人
利用定員数計	18人
常勤	14人
非常勤	人
常勤換算	13.

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建て ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概 19年12月1日現在

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	5	要介護2	6		
要介護3	7	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83.6歳	最低 76歳	最高 96歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 日新会 入澤病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者はゆったりとした共有空間の中で穏やかに過ごしている。地域の祭りや行事に参加して地域住民との交流を深め、保育園園児との世代間交流をはかるなど地域との結びつきを大切にしている。また、ベロタクシーを利用している町並み散策や喫茶店に行くなど外出の機会を多く作っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の明示、継続的な研修の受講、入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり。外部評価の結果を受けて全職員で話し合いを行い、改善に向けて取り組み、運営理念の明示、居室の環境づくりなど改善がはかられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を職員に配布し分担して自己評価を行い、まとまった時点で全員で話し合った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5)
	避難訓練の実施、地域との協力関係づくりなど、各委員から意見を出してもらい運営にいかしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族の来所時に意見、要望を聞くよう心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭り、一斉清掃などへの参加、保育園との交流など地域との交流がある。利用者が外出してしまった場合の見守り、声かけ、災害時の協力等、事業所周辺の住民との協力体制を作ってほしい。

2. 調査報告書

調査員氏名 大野 恒夫 / 同行調査員氏名 熊谷 まゆみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針に地域・家庭との結びつきを掲げるとともに、地域の行事に参加し地域の人たちとの交流をはかる理念を職員全員でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に理念の読み合わせを行っている。支援経過の記録に当たっては、理念に添った適切なケアだったかを振り返り記入している。		定例会等の全体の場で、関わりの振り返りを理念にふれて話し合うようにしてほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り、一斉清掃などへの参加、保育園との交流など地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果について職員で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催され、事業所からの報告とともに委員からの意見、要望等をサービス向上に活かすように努めている。		利用者の見守りや声かけ、災害時の協力関係を築く上でも隣組代表の委員選出を検討してほしい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームでの生活、健康状態等を文章化し、金銭管理報告とともに毎月家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時には意見、要望等を聞くように心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度の職員の異動（離職）が2名あったが利用者へのダメージを防ぐよう配慮した結果、利用者の混乱等はなかった。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月1回計画的に法人内での研修を実施している。		外部研修に参加する機会を計画的に作ってほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加し情報交換・交流をはかっている。他施設を利用者とともに訪問し、サービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おやつの時間等を活用し利用者と話しあえる時間を意識的にもうけ、支えあう関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや意向の把握に努め、生活歴・介護記録表、入居後の情報記録等の用紙に記録し共有化している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望や意見をふまえ、職員全員で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況、目標の達成状況などを評価するとともに、本人、家族、職員で話し合い、状態変化に応じた計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に話し合い、本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人関係者と取り組みに向けて検討中である。	○	事業所が対応しうる最大の支援方法は何か職員で話し合い、法人関係者と協議し方針づくりを進めてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげないトイレ誘導、個室への出入り、個人情報の管理などプライバシーの確保の徹底がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床、食事、日中の過ごし方など一人ひとりのペースに合わせ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、後片付け等できる人は職員と行い、職員と一緒にゆっくりと食事をしてきた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に3日、日中のみの入浴体制となっていて、いつでも入浴できる状態ではない。	○	午後に利用者全員の入浴を支援することは入浴を楽しめるという状態ではないので、いつでも入浴できる体制をつくるための人員配置などを検討してほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	裁縫、生け花等利用者の経験を活かす場面を作っている。遠出の外出や他施設訪問、買い物など楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	ベロタクシーを利用して喫茶店に出かけたり、外食、買い物、散歩など外出の機会を積極的に作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけないように配慮しているが、入浴時やむを得ず鍵をかけることがある。	○	入浴時の人員配置を検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けて年2回避難訓練（夜間想定も実施）を実施している。		地域の協力体制については行政区長にお願いしているが、隣組への協力体制を働きかけてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立づくりに配慮している。食事量は記録し、水分量も確保できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には花、観葉植物が置かれ、季節の飾り物（雛飾り）もあり家庭的で居心地のよい雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談して馴染みの物を居室に置くようし、写真や家具が持ち込まれている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

『至福の郷』グループホーム東町

記入担当者名 管理者 遠藤 正子

管理者 神田 加代子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。